

I 「ですから、兄弟たちよ、私たちには義務（負債）があります。肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬこととなります」：12, 13。

主の十字架と復活と御聖霊の内住により、私たちの霊は、日々新しくされ、主の姿に変えられ続け、死を迎えても、霊、魂は天国に行き、肉体は、火葬され、墓に納められても世の終わりの主の再臨の時に墓から復活し、栄光あるからだ、御霊に属するからだを与えられます。これだけ溢れる恵みを受ける私たちには、神に救われるための義務ではなく、無償の恵みを受け続けているので、神の恵みへの負債、神への感謝から生まれる倫理的責任が生じます。肉（罪の性質）に従って生きなければならないという、肉（罪の性質）に対する義務はありません。もし肉（罪を認めず神を信じない罪）に従って生きるなら、私たちは、死ぬ（永遠に神と分離する死）こととなります。

II 「しかし、御霊によってからだの行い（罪の行い）を殺すなら、あなたがたは生きて（いのちの御霊の実を結びながら生きる）」：13。罪の行いを「殺す」の原語は、罪の行いを「殺し続ける」の意味。これまで聖書から教えられているように、この地上では、罪の性質が死に、消滅することはないのです。それゆえに、私たちの心に、いのちの御霊が住まれ、罪と戦う力を与えて下さいます。自分の力で罪に勝利する人はいない。私たちは、この地上では、御霊に頼り、力をいただき、罪、悪の行いと戦い続けるのです。「世にあっては苦難（試練、罪との戦い）があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました（十字架で全人類の罪の贖い、償いを成し遂げ、死に勝利し復活し、罪より強い聖霊を教会、私たちに遣わされた。聖霊は罪への勝利を与えられる）」（ヨハネ16：33）。罪の行いを殺し続ける指針となるみことばの武具をいくつか見ましょう。

1. 「不品行、姦淫（結婚関係以外の人との体の関係の罪）」の罪との戦い、勝利のためのみことば。

「不品行を避けなさい。…あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮（神殿。新約時代の神殿は私たちの心と主の教会）であり、あなたがたは、もはや自分自身のものでないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価（罪のない主の十字架の血の代価という世界中の富よりも高価な代価）を払って（神のものとして）買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光（素晴らしさ）を現しなさい」（Iコリント6：18－20）。不品行の誘惑に対しては、戦うよりも、むしろ「避ける、距離を置く」ことを聖書は勧めている。ここに聖書の深さがある→ヨセフのご主人の妻からのしつこい不品行の罪の誘惑への対処＝「彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが、彼は聞き入れず、彼女のそばに寝ることも、一緒にいることもしなかった」（創世記39：10）。模範！

2. 不正の富、お金を得る罪の誘惑と戦うためのみことばの武具。

「金銭を愛する（執着する、与えぬ主の神以上に愛する）生活をせずに、今持っているもので満足しなさい（与えぬ主の神に感謝しなさい）。主御自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』と言われたからです」（ヘブル13：5）。

### 3. 「高ぶりの罪」と戦い、対処するためのみことば。

「神は高ぶる者に敵対し、へりくだった者（神に感謝し神に栄光を帰す者）には恵みを与える」（ヤコブ3：6）。「ヘロデは…王座に着き、彼らに向かって演説をした。集まった会衆は、『神の声だ。人間の声ではない。』と叫び続けた。すると、即座に主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫に食われて、息絶えた」（使徒12：21－23。何かを成し遂げたときに、自分を誇る高ぶりがある。その時に、「私が何かできたのは、神が力を下さったからだ！神に栄光を帰し感謝します。また、神が備えられた私のために祈り、支えて下さった方々に感謝します」と告白しましょう。「あなたは心のうちで、『私の力、私の手がこの富を築き上げたのだ』と言わないように気をつけたい。あなたの神、主を心に据えなさい。主があなたに富を築き上げる力を与える」（申命記8：17, 18）。何かを成し遂げる力を下さるのは神ご自身！すべては神のおかげです。

### 4. 「不平、不満、つぶやき、文句の罪」と戦い、対処するためのみことば

「わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。「感謝の心を持つ人になりなさい」（コロサイ3：15）。

### 5. 「自分のことは棚に上げて、人を責め、さばく、悪口、陰口を言う罪」と戦い、対処するためのみことば＝「さばいて（非難しては）はいけません。自分がさばかれないためです。…あなたは兄弟の目にあるちり（欠点、小さな罪）は見えるのに、自分の目にある梁（大木、人を責める大きな欠点、大きな罪）には、なぜ気がつかないのですか。…偽善者よ。まず自分の目から梁（欠点、罪、自分を神の座において人をさばく罪）を取り除きなさい（悔い改めなさい）」（マタイ7：1－5）。

Ⅲ「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです」：14。「この方（主イエス）を受入れた人々、すなわち、その名（主御自身）を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」ヨハネ1：12。主を信じ神の子どもとされ、御霊に導かれる人の特徴

1. 御霊なる神の導きで、聖書を理解し、聖書を読み味わうことが喜びとなる。主の教会の礼拝に集うこと、説教のみことばが喜びとなる。主を中心とした交わりを喜ぶ。
2. 御霊に導かれる人は、神の栄光のために生きたいと願う。神が自分に与えられた賜物、能力を用いて、神の栄光（素晴らしさ）を現したい、主の教会を共に建て上げたいと願う。
3. 御霊に導かれる人は、常に神をより深く知ること、主なるキリストを深く知りたいたいと願う。「永遠のいのち（永遠に神を知り続け神と交わるいのち）とは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストを知る（原語：知り続けること）ことです」ヨハネ17：3。御霊に導かれる人は、聖書を味わうことと祈りで神と交わることが喜びとなる。
4. 御霊に導かれる人は、御霊に自分の愛のなさ、自分の罪を示され、悔い改め、神に立ち返り、自分が神に愛されている恵みを感謝し神と隣人を愛する人に変えられ続ける。感謝！